

第 8 班

1. タイトル： オールドニュータウンからプラチナタウンへ
～ 住民主体の多様性をもったまちづくり ～

2. 報告書の概要：ニュータウンでは、団塊の世代がかつて高度成長期に一斉に入居したことから、他の地域に比べて高齢化が急速に進展しており、それに伴う様々な問題が顕在化しつつある。そこで、ニュータウンの特性（世代の均一性、ベッドタウンであったが故の地域とのつながりの希薄さ、恵まれた都市インフラ、公園や緑地などの豊富なオープンスペース等）を踏まえて、今後、住民（特に高齢者）が、主体的に生きがいを持ち安心して暮らし、さらにはニュータウンならではの資源を活用した多様性をもったまちとなるよう、次の提言を行った。
①住民が主体性をもって支え合い、つながり合うまち（まちのビジョンの共有化、住民がつながり合う仕組みづくり等）、②高齢者が生きがいを持って過ごせるまち（生きがい就労の場づくり、廃校となった小中学校の活用等）、③高齢者が快適・安心に住み続けていけるまち（高齢者の見守り・生活支援、住み替え促進等）④新しい価値を創造できるまち（医療・福祉系大学等との連携等）

3. 引用している事例：
①明舞団地の「まちづくり委員会」、多摩ニュータウンの「多摩ニュータウン再生検討会議」
②明石市の保健飲料配布を通じた高齢者安否確認
③明舞団地のNPO、多摩ニュータウンの京王電鉄による高齢者生活支援 ほか

4. アンケート調査の有無 : 無し